

株主各位

第21回定時株主総会その他の電子提供措置事項  
(交付書面省略事項)

個 別 注 記 表

(2023年1月1日から2023年12月31日まで)

株式会社魅力屋

## 個別注記表

### 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### 1. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

原 材 料……………最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）…定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建 物 4～41年

そ の 他 2～20年

##### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）…定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

##### (3) リース資産…定額法

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

#### 3. 収益及び費用の計上基準

当社は、主に店舗において飲食サービスの提供を行っており、顧客からの注文に基づき飲食サービスを提供した時点で履行義務が充足されることから、当該時点で収益を認識しております。また、顧客がクーポン等を使用する場合は、対価からクーポン等により充当された金額を減額しております。なお、売上時に付与したクーポンについては、履行義務として識別し、将来の使用見込み等に基づき算定された独立販売価格に取引価格の配分を行い、当該クーポンが使用又は失効した時点で収益を認識しております。

## 表示方法の変更に関する注記

(損益計算書)

前事業年度まで区分掲記して表示しておりました「受取配当金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より、営業外収益の「その他」に含めて表示しております。

## 会計上の見積りに関する注記

店舗に係る固定資産の減損

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

|          |             |          |              |
|----------|-------------|----------|--------------|
| 減損損失     | 1,028千円     | (うち、店舗設備 | 1,028千円)     |
| 有形固定資産   | 2,126,906千円 | (うち、店舗設備 | 2,091,574千円) |
| 無形固定資産   | 64,442千円    | (うち、店舗設備 | 54,809千円)    |
| 投資その他の資産 | 25,163千円    | (うち、店舗設備 | 23,802千円)    |

(2) その他見積りの内容に関する理解に資する情報

当社は、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として事業用資産である店舗を基本単位として資産のグルーピングを行っております。店舗において本社費用等を配賦した後の営業損益が2期連続でマイナスとなるなど、減損の兆候に該当するような事象が認められた場合には、資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することによって減損損失の認識の判定をしております。割引前将来キャッシュ・フローの総額が資産グループの帳簿価額を下回る店舗においては、回収可能価額を算定し固定資産の減損損失を計上しております。

将来キャッシュ・フローの見積りは、取締役会で承認された事業計画や店舗別予算を基礎としており、客単価や客数等は一定の仮定に基づき算定しております。これらの仮定が将来の不確実な経済状況等により大きく異なった場合には、翌事業年度に追加の減損損失を認識する可能性があります。

**貸借対照表に関する注記**

- |                                     |             |
|-------------------------------------|-------------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額                   | 1,494,240千円 |
| 2. 独立店オーナーについて仕入先からの仕入債務の一部に対する債務保証 |             |
| 株式会社スライヴカンパニー                       | 15,237千円    |
| 株式会社Surplus                         | 3,115千円     |

**損益計算書に関する注記**

該当事項はありません。

**株主資本等変動計算書に関する注記**

- |  |             |
|--|-------------|
| 1. 当事業年度末の発行済株式の種類及び総数                                 |             |
| 普通株式   | 5,490,000株  |
| 2. 当事業年度末における自己株式の種類及び株式数                              |             |
| 該当事項はありません。  |             |
| 3. 剰余金の配当に関する事項  |             |
| (1) 配当金支払額等  |             |
| 該当事項はありません。  |             |
| (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの             |             |
| 2024年2月14日開催の取締役会決議による配当に関する事項                         |             |
| 配当金の総額   | 82,350千円    |
| 配当の原資  | 利益剰余金       |
| 1株当たり配当額   | 15.00円      |
| 基準日  | 2023年12月31日 |
| 効力発生日  | 2024年3月12日  |
| 4. 当事業年度末の新株予約権（権利行使期間の初日が到来していないものを除く。）の目的となる株式の種類及び数 |             |
| 普通株式   | 96,000株     |

## 金融商品に関する注記

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、設備投資計画に照らして、店舗の出店に必要な資金及び短期的な運転資金を、主に銀行借入により調達しております。なお、デリバティブ取引は行わない方針であります。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金及び預け金は、取引先の信用リスクに晒されております。

建設協力金は、支払家賃との相殺により回収しますが、店舗物件の貸主の信用リスクに晒されております。

敷金及び保証金は、主に店舗の賃借時に差入れているものであり、差入先の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金及び未払金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。

借入金は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、返済日は最長で決算日後6年であります。借入金については、金利の変動リスクに晒されております。

#### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

##### ① 信用リスク（顧客の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権については、経理部等が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

##### ② 市場リスク（金利等の変動リスク）の管理

借入金については、定期的に残高と金利の動向を把握し、管理しております。

##### ③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理部が資金計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより、流動性リスクを管理しております。

#### (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

|                      | 貸借対照表計上額 | 時価      | 差額      |
|----------------------|----------|---------|---------|
| 建設協力金 <sup>(2)</sup> | 224,436  | 224,365 | △71     |
| 敷金及び保証金              | 469,215  | 406,131 | △63,084 |
| 資産計                  | 693,652  | 630,496 | △63,155 |
| 長期借入金 <sup>(2)</sup> | 952,123  | 954,532 | 2,409   |
| 負債計                  | 952,123  | 954,532 | 2,409   |

(\*1) 「現金」については現金であること、「預金」「預け金」「売掛金」「買掛金」「未払金」及び「未払法人税等」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(\*2) 「建設協力金」及び「長期借入金」には、一年内に期限の到来する金額を含めております。

(注1) 金銭債権の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

|         | 1年以内      | 1年超<br>5年以内 | 5年超<br>10年以内 | 10年超    |
|---------|-----------|-------------|--------------|---------|
| 現金及び預金  | 3,511,816 |             |              |         |
| 預け金     | 224,873   |             |              |         |
| 売掛金     | 259,305   |             |              |         |
| 建設協力金   | 25,113    | 78,759      | 78,469       | 42,095  |
| 敷金及び保証金 | 14,956    | 47,102      | 118,748      | 288,409 |
| 合計      | 4,036,065 | 125,861     | 197,217      | 330,504 |

(注2) 長期借入金の決算日後の返済予定額

(単位：千円)

|       | 1年以内    | 1年超<br>2年以内 | 2年超<br>3年以内 | 3年超<br>4年以内 | 4年超<br>5年以内 | 5年超   |
|-------|---------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------|
| 長期借入金 | 336,546 | 238,497     | 196,040     | 141,183     | 37,532      | 2,325 |
| 合計    | 336,546 | 238,497     | 196,040     | 141,183     | 37,532      | 2,325 |

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で貸借対照表に計上している金融商品

該当事項はありません。

(2) 時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位：千円)

| 区分      | 時価   |         |      | 合計      |
|---------|------|---------|------|---------|
|         | レベル1 | レベル2    | レベル3 |         |
| 建設協力金   |      | 224,365 |      | 224,365 |
| 敷金及び保証金 |      | 406,131 |      | 406,131 |
| 資産計     |      | 630,496 |      | 630,496 |
| 長期借入金   |      | 954,532 |      | 954,532 |
| 負債計     |      | 954,532 |      | 954,532 |

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

建設協力金、敷金及び保証金

これらの時価は、一定の期間ごとに分類し、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金

長期借入金のうち変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映していることから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。長期借入金のうち固定金利によるものは、元金利の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定しており、レベル2の時価に分類しております。

税効果会計に関する注記

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

|                 |                  |
|-----------------|------------------|
| (繰延税金資産)        |                  |
| 未払事業税           | 15,627千円         |
| 未払費用            | 55,406 //        |
| 契約負債            | 7,700 //         |
| 資産除去債務          | 113,313 //       |
| 減損損失            | 142,419 //       |
| 減価償却超過額         | 19,823 //        |
| その他             | 4,876 //         |
| 繰延税金資産小計        | <u>359,166千円</u> |
| 評価性引当額          | <u>△5,356 //</u> |
| 繰延税金資産合計        | <u>353,810千円</u> |
| (繰延税金負債)        |                  |
| 資産除去債務に対応する除去費用 | △37,804千円        |
| 負債調整勘定          | △10,715 //       |
| その他             | △4,160 //        |
| 繰延税金負債合計        | <u>△52,679千円</u> |
| 繰延税金資産純額        | <u>301,130千円</u> |

リース取引により使用する固定資産に関する注記

貸借対照表に計上した固定資産のほか、リースにより使用している固定資産としてPOSレジ及びその周辺機器等があります。

## 関連当事者との取引に関する注記

### 1. 役員及び個人主要株主等

| 種類       | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金又は出資金(千円) | 事業の内容又は職業 | 議決権等の所有(被所有)割合(%)         | 関連当事者との関係 | 取引の内容          | 取引金額(千円) | 科目 | 期末残高(千円) |
|----------|------------|-----|--------------|-----------|---------------------------|-----------|----------------|----------|----|----------|
| 役員及び主要株主 | 藤田 宗       | —   | —            | 当社代表取締役社長 | 被所有<br>直接19.5%<br>間接49.2% | 債務被保証     | 不動産賃貸借契約の債務被保証 | 250,799  | —  | —        |

(注) 当社は、店舗の賃借料について、代表取締役社長藤田宗から債務保証を受けております。取引金額については、費用認識した賃借料を記載しております。なお、保証料の支払いは行っておりません。

### 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

## 収益認識に関する注記

### 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

|               | 当事業年度<br>自 2023年1月1日<br>至 2023年12月31日 |
|---------------|---------------------------------------|
| 直営店売上高        | 10,216,910                            |
| その他           | 318,733                               |
| 顧客との契約から生じる収益 | 10,535,643                            |
| その他の収益        | 48,166                                |
| 外部顧客への売上高     | 10,583,810                            |

### 2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、重要な会計方針に係る事項に関する注記「3. 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

### 3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から翌事業年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 契約負債の残高等

(単位：千円)

|      | 期首残高   | 期末残高   |
|------|--------|--------|
| 契約負債 | 72,142 | 25,946 |

契約負債は、主に顧客との契約に基づいて顧客から受け取った前受金及び当社が付与したクーポンのうち期末時点において履行義務を充足していない残高であります。

当事業年度期首時点で保有していた契約負債に関しては主に当事業年度の収益として認識しております。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社では、残存履行義務に配分した取引価格については、当初に予想される契約期間が1年を超える重要な契約がないため、記載を省略しております。

なお、顧客との契約から受け取る対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

**1 株当たり情報に関する注記**

|             |         |
|-------------|---------|
| 1 株当たり純資産額  | 801円52銭 |
| 1 株当たり当期純利益 | 88円95銭  |

**重要な後発事象に関する注記**

該当事項はありません。

**その他の注記**

該当事項はありません。